

校内における教職員間の業務負担の平準化、会議や調査照会等の縮減などの学校の事務作業量の軽減等

1. 事業の実施報告

(1) 調査研究のねらい

教職員の業務負担についての現状把握を行い、会議や調査等の精選、学校と教育委員会の情報の共有化の推進、校務分掌の適正化を図り、教職員が子どもたちと向き合う時間をより多く確保する。

(2) 事業の実施状況

「校務分掌の適正化等」について、和歌山県教育委員会と2つの研究協力地域を中心に研究を進めた。かつらぎ町教育委員会においては、学校評価から明らかになった課題に対して学校独自のプロジェクトを校務分掌組織に位置づけ学校経営の活性化の研究を進めた。有田川町教育委員会においては、教職員が子どもと向き合う時間をより多くし、生き生きとした学校づくりを推進するために、事務処理の効率化、会議の持ち方、情報管理の方法、環境整備等について教育委員会としての学校支援についての研究を進めた。

(3) かつらぎ町教育委員会における取組

1 テーマ 学校の課題を解決することに重点をおいた校務分掌の組織・運営による学校運営の活性化

2 テーマについて

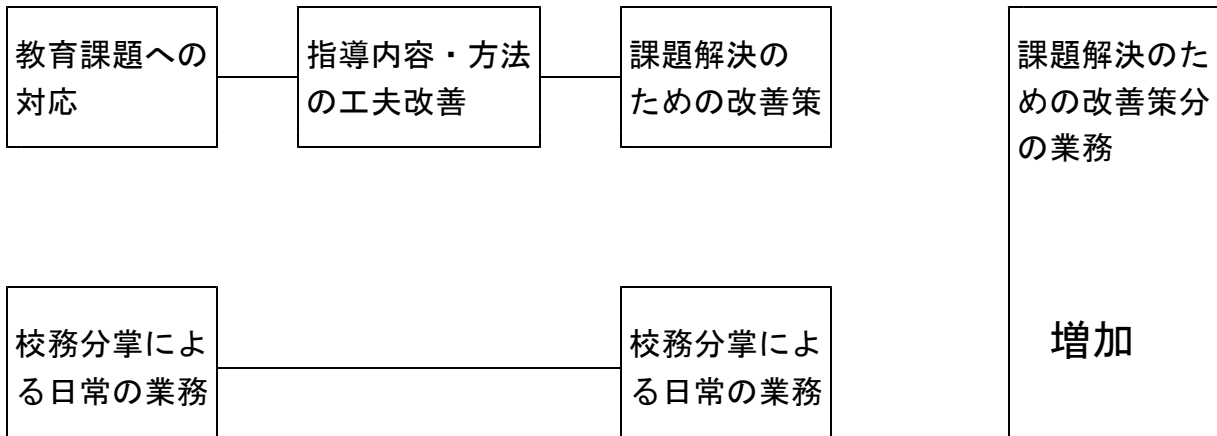
学校評価で明らかになる課題は、「生徒指導上の問題」「学力の問題」「体力の問題」等、教員一人ひとりの取組により解決できるものではなく、教員が一丸となり、学校がチームとしての機能を発揮しなければ解決できないものばかりである。各学校は、それぞれの課題を解決するために課題を重点化し優先順位をつけて組織的に対応することが必要である。組織的に対応するためには、校務分掌のあり方が重要となる。

そこで、各学校の教員が、チームとして、組織として機能する校務分掌組織とその運営方法について検討し、学校経営の活性化を図るため本テーマを設定した。

3 研究の目的

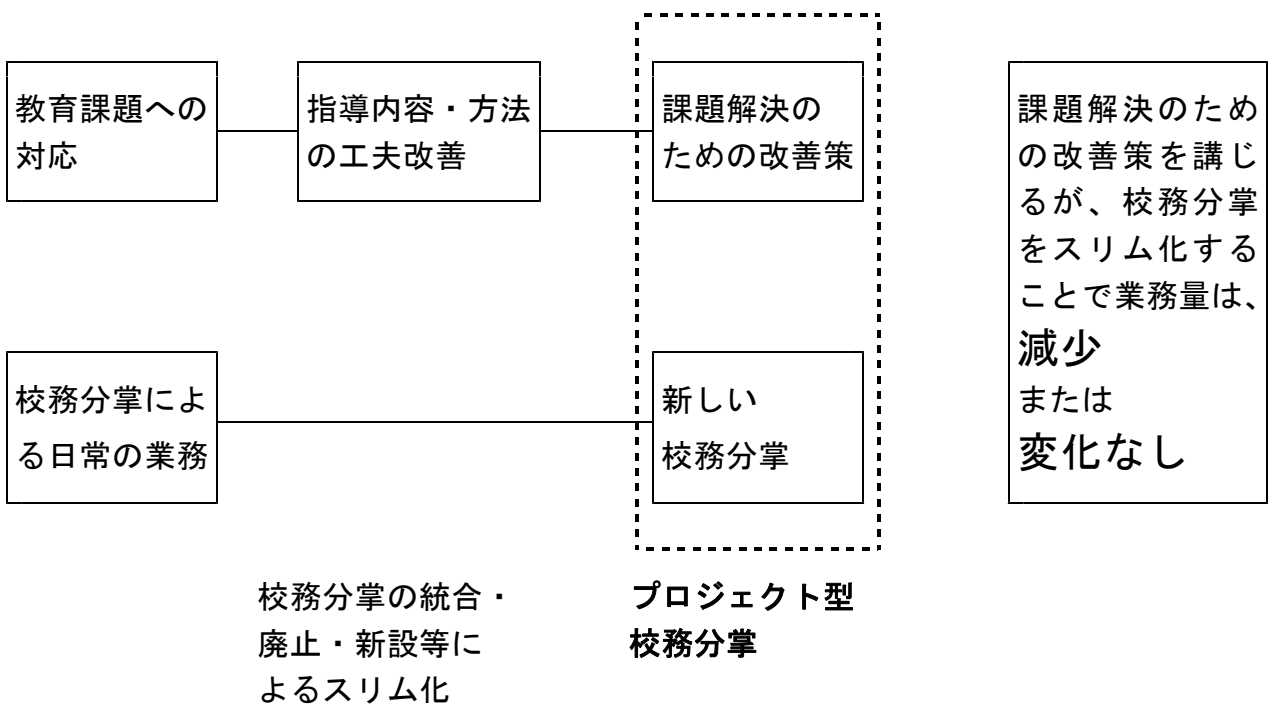
学校の課題を解決することに重点をおいた校務分掌を組織・運営し、学校経営を活性化させることにより、教師が児童生徒と向き合う時間を確保するとともに心身ともに健康な状態で児童生徒の指導にあたり、児童生徒により質の高い教育を提供する。

4 研究の方向
 <従 来>



- 校務の統合・廃止・新設等の工夫をせずに、教育課題に対する改善策を講じ実践すれば教員の業務量が増え、業務時間も増大する。(目的達成が難しい)

<今 後>



- 教育課題に対する改善策を講じ実践したとしても、校務を統合・廃止・新設するなどの工夫をすれば業務量等は大きく増加しない。(目的達成が可能)

5 校務分掌見直しの視点

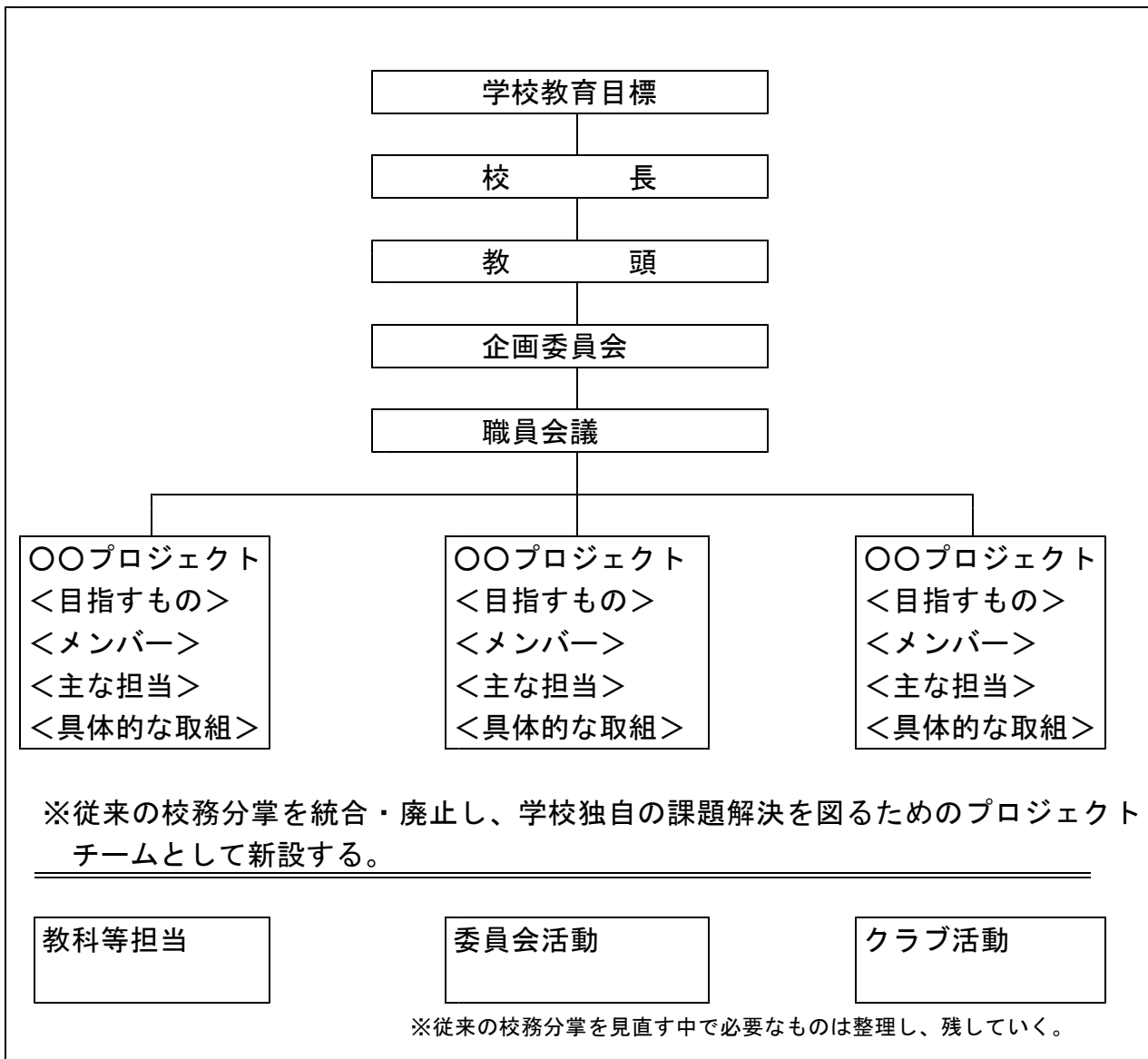
- ① 教育目標達成を意識した校務分掌になっているか。

- ② 学校としての課題が重点化され、それが校務分掌組織に反映されているか。
- ③ 教員一人ひとりの責任が明確になっているか。
- ④ 校務の統合・廃止・新設が検討されているか。
- ⑤ 教員一人ひとりが個々の力を出し合い、チームとして機能しているか。
- ⑥ 教職員個々の力量や年齢差からくる経験が校務分掌組織の中にうまく取り入れられているか。
- ⑦ 校務の内容が明確化されているか。
- ⑧ 指示・報告がスムーズに行われる体制になっているか。

6 目指す校務分掌組織

管理型校務分掌から学校の課題に対応した学校独自のプロジェクトにもとづいた校務分掌を組織し、運営することで学校経営を活性化させる。

【プロジェクト型校務分掌組織】



7 成果と課題

○成 果

- ・一部の学校であるが、教育目標達成を意識したプロジェクト型校務分掌になりつつある。
- ・朝の職員打合せを無くすなど、子どもと向き合うための時間を確保するために努力をする学校が出てきた。

○課 題

- ・「教師が児童生徒と向き合う時間を確保するとともに心身ともに健康な状態で指導にあたり、児童生徒により質の高い教育を提供する。」という考えを広め、各学校が時間確保等のために各学校の実態に応じた具体的な方策を講じる。

(4) 有田川町教育委員会における取組

1 テーマ

教職員が子どもと元気に向き合うために

・・・「教育委員会ができること」と「学校ができること」・・・

現在、様々な調査結果から教職員の多忙化が問題となっている。本町においても程度の差はあるが、教職員が多忙感をもっていることは事実である。また、指導や事務といったソフト面だけでなく、校舎や教室、職員室、ICTなどハード面においても快適に仕事をするためには、改善すべき多くの課題がある。

そこで、今回は「教育委員会ができること」と「学校ができること」という視点から事務処理や会議、情報、環境について検討し、「教職員が子どもと元気に向き合うために」というテーマのもと積極的な施策を実施していきたいと考え本研究に取り組んだ。

2 研究目標

教職員が、子どもと向き合う時間をより多くし、生き生きとした学校づくりを推進する。

3 研究内容

(1) 「教育委員会ができること」

教育委員会は、指導や研修、評価、人事、備品、給食、保健など様々な面から依頼や調査を実施している。また、各担当は、訪問や会議、連絡、照会など指示や要求を大量に発出し、学校の対応を要求している。更に、予算や議会对応のためなど緊急な対応を迫るものもあり、学校の多忙感を増進しているものと思われる。

逆にハード面では、消耗品や備品の購入などの予算、施設の修繕改築、環境の改善など学校の要求に迅速に対応できないことが多く、教職員の不満感を募らせていると思われる。

そこで、ソフト面では事務関係の実態を正確に把握し、「効率化」「共有」をキーワードに取り組んだ。また、事務局職員の職務への取り組み方についても検討し、学校の負担軽減につながる働き方について検討した。

ハード面では、教職員の意見や意向を具体的に把握し、「改善」「実現」をキーワードに町当局に働きかけ、可能性を拡大していくことができた。

(2) 「学校ができること」

学校は、子どもという生きた人間を相手に教育をするところである。また、保護者や地域の人々など、様々な人の生の声を聞きながら対応するところである。学習指導や生徒指導は、事務的に処理できるものではなく、子どもの状況や状態に合わせ、柔軟に対応しなければならないものである。したがって、学習の方針や計画どおりに進まないのが前提条件としてとらえなければならない。また、きめ細かな指導や個に応じた対応をすればすれほど多くの時間が必要となるということも基本となる。

つまり、教職員は、「時間を生み出す人」でなければならないということである。

研究や研修、事務処理、会議など精選しない限り、増えることはあっても減ることはなく、意味のない多忙状態となる可能性が高い。

そこで、学校長を中心として現実把握を徹底し、「意味」「必要」をキーワードに学校の運営を振り返り、教育目標の達成や課題解決のための学校運営となっているかチェックしてきた。

また、ハード面では、「我が家」をキーワードに教職員が常に施設環境に対する意識をもち、自ら改善できる部分は取り組み、よりよい環境づくりのために意見やアイデアをもてるように取り組んできた。

4 研究の視点・キーワード

(1) 教育委員会

①ソフト面「効率化」「共有」

- ・調査、照会、提出書類・・・・・・・・見直し、簡素化、廃止
- ・研究、研修、会議、行事・・・・・・・・見直し、統合、廃止
- ・外部人材等の活用・・・・・・・・サポート

②ハード面「改善」「実現」

- ・予算・・・・・・・・ニーズ、充実、柔軟性
- ・施設・・・・・・・・修繕、改築、改善

(2) 学校

①ソフト面「意味」「必要」

- ・校務、業務・・・・・・・・見直し、簡素化、廃止
- ・事務処理・・・・・・・・見直し、簡素化、効率化
- ・研修、会議、研究・・・・・・・・見直し、精選、効率化
- ・学校行事・・・・・・・・見直し、統合、廃止

②ハード面「我が家」

- ・予算・・・・・・・・見直し、充実、柔軟性
- ・環境・・・・・・・・修繕、改善

5 成果と課題

本年度は、教育委員会と学校がそれぞれにできることを見つけることから研究をスタートさせた。また、現状を正確に把握することや形骸化したままになっていることなどに着目することに重点を置き、学校長や教職員、教育委員会事務局職員の問題意識を高めることから

取り組み始めた。

その中で、全体として日常の様々な業務に取り組んでいるため、多忙感はそれぞれに高く、これ以上調査や研究は無理であるとの心理状態となっていることが窺えた。また、忙しさに追われている状態で、仕事に対する姿勢がどうしても受け身になっている傾向が強いと感じられた。したがって、目の前の課題を解決するエネルギーが必要となるためなかなか改善や改良に至らないと考えられる。

その結果、教職員の負担軽減のためには、以下のようなことが今後の課題であると考えている。

- ・教育委員会は、事務や予算について、ユーザーとしての学校のニーズに合った内容で取り組んでいるのか。素早い対応ができているのか。
- ・学校は、問題意識を持ち校長を中心として具体的に取り組んでいるのか。PLAN・DOばかりでCHECK・ACTIONに取り組んでいるのか。
- ・受け身ではなく「攻め」の姿勢の仕事になっているか。

来年度からは、以上のようなことをふまえ学校マネジメントの研究に本格的に取り組んでいきたいと考えている。

(5) 県としての取組の経過

平成21年 7月15日(水) 第1回連絡協議会
10月 5日(月) 第2回連絡協議会
10月 9日(金) 和歌山市立紀之川中学校訪問
10月13日(火) 和歌山市立川永小学校訪問
10月21日(水) 有田川町教育委員会指導訪問
11月16日(月) 上富田町立朝来小学校、上富田中学校訪問
12月10日(木) 橋本市立三石小学校訪問
12月14日(月) かつらぎ町教頭・教務主任合同会議
12月18日(金) 第3回連絡協議会
12月21日(月) 市町村教育委員会指導・人事事務担当者等会議にて
中間成果報告
平成22年 2月19日(金) 学校マネジメント支援推進協議会

かつらぎ町、有田川町と連携しながら事業を進めてきた。また、教職員の勤務負担軽減ができるように、学校運営において特色ある取組をしている学校を訪問し聞き取り調査を行った。好事例を市町村教育委員会指導主事会等で紹介し、指導主事が学校訪問をする際に参考にするよう成果の普及に努めてきた。

2. 調査研究の成果

かつらぎ町においては、学校評価に取り組んできたことを更に進めていくよい機会となった。プロジェクト型校務分掌を取り入れた大谷小学校の実践の成果を町内各小中学校に進めていく方向である。有田川町においては、現在行っている教育施策を学校マネジメント支援の視点で整理し、見直すよい機会となった。県としては、指導主事や人事主事が学校訪問をする際に組織マネ

ジメントの視点からも指導助言するよう意識するようになってきた。

3. 今後の取組予定

本年度の取組を冊子にまとめ、市町村教育委員会や県内の各小中学校へ配付するとともに、市町村教育委員会指導主事会等で成果を普及していく。